

巻 頭 言

同窓会誌5号を発行してから1年が経った。この1年間を振り返ると、新型コロナウイルスの感染状況を聞かされ、読まされてきた日々であったとの思いを避けえない。感染状況が極めて厳しい期間もあったが、別の期間では感染問題はもうすぐ終わるだろうと私などは考えもした。しかし、そんな私の楽観を嘲笑うように現在の日本は、第7波と呼ばれる大波に全国覆い尽くされてしまった。日ごとの新規感染者数だけを見ると、かつては想像もできなかった大きさである。実際、私の周りでも、私の子供の2家族、筋向いの小学生と中学生、元町内会長などの感染が耳に届いた。そして報道されている感染者数より実際の数字は遥かに多いだろうとの感を何となく抱く。しかし、かつてのような緊張感は余りないように思われる。果たしてこの後、感染問題はどのように終息するのであろうか。

新型コロナウイルス感染問題、異常気象による災害の頻発、ロシアのウクライナへの侵略、核兵器が実際に使用される世界戦争の危機、これらに起因する各国内での、また世界の国家間の貧富の差の拡大、などの問題が我々の在り方を問うてくる感である。

京大数学同窓会は、世話人会を Zoom によって定期的で開催してきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大に、私たちは閉じ込められ、動きを封じられてきた感である。とはいえ、2022年3月には、前川専攻長の積極的なお働きによって数学教室の2021年度学位記授与式が開催された。もちろん、同窓会も協力させてもらい、わたしも出席して同窓会からの祝辞を述べさせてもらった。卒業生から卒業後の連絡先を知らせてもらう手続きも順調に進んだ。同窓会の世話で開いてきた懇親会は諦めざるを得なかったのは当然であるとしても、このようにして数学教室の学位記授与式が開催されたことは大変喜ばしいことであった。

2021年は京大数学同窓会にとって忘れがたい年となった。京大数学同窓会のみならず日本の数学界全体にとっても2021年のごとき年がはたして再度訪れるだろうかなどと私などはつい考えてしまう。それは次の二つの喜ばしい出来事が続けて起こったことである。私が知った順に書けば

- (1) 望月拓郎さんの2022年“数学ブレイクスルー賞受賞”の発表
- (2) 森重文さんの第83回(2021年)“文化勲章受章”

である。

本誌は、お二人の業績やお人柄を紹介する記事、すでに日本数学会の雑誌に発表されたもの、および今回新しく執筆を願ったもの、を掲載することにした。数学の業績を紹介することは大変難しいことではあるが、これらの記事を通してお二人の成し遂げられた成果を少しでも理解したく願うものである。

この度のお二人の素晴らしいご業績がかく顕彰されたことに心からお祝いを申し上げたい。そしてこのような事が今後とも起こることを願うとともに、同窓生の皆様がそれぞれの分野で頑張っておられるお仕事が、評価され、喜ばれて、ともどもに喜び祝うことが次々と生まれてくることを切に願っている。

2022年8月25日
会長 井川 満